

日本に学んで思うこと

出席者 A. マジュンダル(大阪大, バングラディシュ)

I. プレマチャンドラ(東工大, スリランカ)

サイ・ヤオハン(東大, マレーシア)

伊 慶勲(筑波大, 台湾)

横井 満(学会国際理事)

伏見正則(学会国際幹事, 司会)

1983年10月27日(工学院大学にて)

司会 皆さん、今日はお集まりいただきまして、どうもありがとうございました。日本OR学会は、いままでもいろいろ国際的な協力を行なってきましたが、とても十分とはいえませんので、もっと積極的に活動をしようということになりました。そのような活動のひとつとして、今日は日本に勉強にきていらっしゃる皆さん方にお集まりいただいて、勉学上の悩み、日本政府に対する要望、日本OR学会に対する希望等をお聞かせいただくということになりました。どうぞご自由にご意見をおっしゃってください。

もう1人お見えになる予定ですが、そろそろ自己紹介から始めていただきましょうか。

自己紹介・来日の動機

A バングラディシュからきましたマジュンダルです。ダッカ大学で数学を勉強してから理論物理を1年間勉強し、大学で2年ほど働いてから日本にきました。大阪外国語大学で6カ月間日本語を勉強してから大阪大学の大学院に入りました。現在は博士課程で optimal stopping の研究をしています。

B 私はスリランカからまいりましたプレマチャンドラと申します。3年半前に日本にまいりまして、最初の半年間は大阪外国語大学で日本語を勉強し、東京工業大学の大学院に入りました。現在は総合理工学研究科の博士課程で待ち行列関係の研究をしています。スリランカでは、学部を卒業後2つの大学院の修士課程で統計学の勉強をしてから大学の先生になりました。現在は休暇をもらって日本にきています。

C マレーシアからきましたサイ・ヤオハンです。サイが姓ですが、普通ヤオハンと呼ばれています。大学を1年途中で退して6年ほど前に日本にきました。1年間東京外国語大学の日本語学校で日本語の勉強をしてから東大の教養学部に入りました。現在は大学院経済学研究科の修士1年で、財務関係の勉強をしています。

司会 留学先として、ヨーロッパやアメリカではなくて、日本の大学を選ばれた理由は何なのでしょうか

C ほかの国に私費で留学する可能性もあったのですが、日本の文部省の奨学金をもらうための試験に受かったというのが大きな理由のひとつです。しかし、以前から日本を夢見ていたということもあります。マレーシアは日本と経済的に密接な関係がありますから、日本語をマスターするだけでも大きなメリットがあります。将来は2国間に立って仕事をしたいと思っていました。

B 私の場合も日本の文部省の奨学金がもらえることになったのがひとつの理由です。イギリスのアスタン大学の奨学金ももらえたのですが、それをやめて日本にきたのは、研究期間が長いという魅力によります。スリランカの私の大学にも、イギリスでマスターをとってきた者がいますが、1年間授業に出るだけでマスターをもらっても、広い分野を勉強するのはとてもむずかしいです。その点、日本の大学の修士課程では、1年間授業に出て勉強した後1年間研究ができるから大変にいいと思いついて、日本にきました。日本の大学のレベルは非常に高いと思っています。

A 私の場合は、国内ではORの勉強はできないものですから、奨学金をもらって外国で勉強しようと思ったのですが、最初にもらえることになったのが日本の文部省のだったものですから日本にきたのです。きてみた結果は、よかったと思っています。

司会 今、伊さんがこられました。まず自己紹介をしてください。

D 台湾の留学生の伊と申します。1981年4月に日本にきて、筑波大学で1年間研究生として勉強し、その後大学院の経営政策研究科に入り、今修士2年です。日本の企業の海外投資に関する研究をしています。卒業後は2~3年ほど日本でコンピュータ関係の会社で働こうと思っています。その会社は、台湾に子会社を作ろうと思っていますから、私が今までに学んだことも生かせる

のではないかとと思っています。

司会 台湾で学校を出てからすぐ日本にいらっちゃったわけですか？

D いいえ、商業専門学校（高校3年間＋大学2年間に相当）で税務の勉強をしてから、税務局で5年間働きました。その間に夜間大学で4年間国際貿易を勉強して日本にきました。

言葉・生活・習慣の問題

司会 皆さん日本語が大変お上手ですが、はじめて日本にいらっちゃったところ、言葉とか生活とかのことで困ったことはありませんでしたか。

B 最初はいろいろ困ったことがありました。日本にきたときは日本語というものを知りませんでした。最初の夜は留学生会館に泊って、その食堂に食べにいったのですが、日本の食べ物、国で辛いものを食べつけていた私には、味がなくて食べられませんでした。翌朝おながすいてたまらなかったのですが、「食堂はどこですか」と聞くこともできなかったので、遠いところまで歩いて店を探してやっとパンを買って食べました。しかし1カ月間がまんして日本の料理を食べているうちに慣れました。いまでは日本料理は大好きです。家でも、家内・子供2人と一緒によく食べます。

C 日本の大学の学部に入るのだから、すべて日本語でやらなければならないという心の準備はできていたのですが、やはり最初はつらかったですね。1年生の時は、講義を聞いても1～2割しかわかりませんでした。それから、日本人の寮に入っていたのですが、年齢が違うせいか、波長の違う人があって、団体生活はつらかったですね。個人的なつきあいは問題ないのですが、それで最後は脱落してアパート生活をしました。

D 私の場合は、国で日本人の友達から日本語を学んでいましたので、言葉では苦勞しませんでした。食べ物もスシやサンミには慣れていました。ただ、大学の食堂の山盛りの生のキャベツは、草を食べるみたいな感じで、だめでした。それから、友人関係についていいますと、日本人は箱入り娘タイプが多くて、つき合いに積極的でないような感じがします。こちら側から近づいていくと積極的になって深いつきあいができるのですが、それまでにずいぶん時間がかかります。さきほどの話にもありましたが、仲間意識が強すぎると、外の者は入っていきにくいのです。もっとも、今では私が一番深いつきあいをしているのは日本人の友達ですが、

また、日本人は give and take の考えが強すぎる感

じもします。もちろん、「ただより高いものはない」ということは誰でも知っていますが、（笑）たとえば授業に出られなかった人に、習ったことを教えてあげると、「今度おごるから」というのです。人間同士のつきあいとしてやっていることですから、そういうことを聞くと悲しくなります。

A 外国語大学で日本語を教わったのですが、それはテキストに書いてある日本語で、普通の会話で使われる日本語とは必ずしも同じでないのです。たとえば、大阪で買い物をすると、店員が「ほんまに」とか「おおきに」とかいうのですが、意味がわかりません。また、テキストで「私は東京にいきました」と習うのですが、実際には「いった」とか「いっちゃった」という言葉が使われているのですね。食事の面では、私は豚肉がダメなので、レストランで聞くと、「豚肉は入っていません」といわれるのですが、よく見るとハムが入っているのです。お風呂も困りました。このまえ広島の友達のところへ行って泊ったのですが、数日入れませんでした。冬だからよかったです。（笑）

B 外国語大学で日本語を勉強する場合、問題はいろいろなレベルの人がいることです。みんな一緒のクラスで勉強しているから、どうしても一番下のレベルの人に合わせるようになります。また、1学期6カ月間のうち、実際に授業があるのは3カ月間程度です。修士課程や博士課程に入って勉強したいと思っている人には、別のクラスでもっとしっかりと教えてもらおうと役に立つと思います。大学院に入って授業に出てみると、非常にむずかしくて困りました。9月に日本語の勉強が終わって、翌年の4月に大学院に入るわけですが、その間の半年もしっかり日本語を勉強できるところがあるといいと思います。

A 私はちょっと違う考えです。留学生は4月から10月に日本にきます。私の場合は10月で、半年間日本語を勉強してから大学院に入りました。ヤオハンさんのように学部から入るのでしたら、1年間日本語の勉強をしたほうがよいかもかもしれませんが、大学院に入る場合は、1年間日本語ばかりやるよりも、日本語と専門の勉強を並行してやるほうがよいと思います。

B 計算機関係のマニュアルを読むのには本当に苦勞しました。英語で書いたものがないのです。もっと日本語を勉強しておけばよかったと思いました。日本人の学生なら2時間で読めそうなものも、1カ月かかっても読めませんでした。

司会 計算機のマニュアルはわかりにくくて、日本人で

もなかなか読めないのです。(笑)

A 留学生も多いですから、マニュアル等英文の資料をそろえてもらうといいですね。

B 日本に来る前は、少なくとも大学院の授業は英語でやっているものと思っていました。漢字というものが、こんなにむずかしいものとは知りませんでした。自分で一生懸命勉強して、今回の研究発表の原稿は日本語で書いたのですが、まだなかなかうまくできません。

制度上の問題等

C 国費留学生の場合はいいのですが、私費留学生の場合は、身元保証人の問題があります。日本に留学する場合には、来日する前に身元保証人として日本政府に税金を払っている人を届け出なければならないのです。本国にいる間にどうしてそういう人を探したらよいのでしょうか、とても困ります。ただ身元保証人を見つけられないというだけの理由で、日本に留学するのをあきらめて、イギリスやアメリカにってしまう人もたくさんいます。ちなみに、マレーシアから日本に留学している者は350人であるのに対して、アメリカには7000人、イギリスには2万人が留学しています。また、5万円ぐらい支払って身元保証人になってもらうというケースもあり、やみの商売が成り立つのです。なんとか改められることを希望します。

B 私のように、向うで仕事をもって勉強にきている者には特別の悩みがあります。それは休暇の問題です。日本語の勉強に1年間、修士課程が2年間、博士課程が最低3年間、合計6年間以上も仕事を休まなければならないのです。イギリスなどに留学した友人は、はじめから博士課程に入って3年ないし4年でドクターを取って帰るのです。私の場合には、なぜ6年もかかるのかを説明して、休みの許可をもらうのが大変にむずかしいので

す。しかも、博士課程を3年で卒業できるかどうかもわからないので、とても心配です。6年かかって博士をとれないで帰るというのは、非常に恥かしいことです。

A 向うで修士課程を終わって勉強にきている者の目的は、博士号をとることです。勉強だけして帰るのでは、あまり意味がないのです。ところが博士号をもらうためのstandardization(統一基準)がないのです。それで、ある人は博士号をとりやすく、他の人はとりにくいという問題が生じます。

私の友人で、別の大学に留学して、とても優秀で一生懸命勉強していた人がいるのですが、その先生がとてもきびしいというか、親切でなかったというか、そのためにあきらめて帰国してしまいました。こういう問題に対して、innocentな留学生はどうしたらよいのでしょうか。

B 留学生の場合は、経験の違いなどで、最初は日本人学生と比べてレベルが低いと思います。私の場合は、計算機関係のことは何も知らなかったのですが、日本人学生と同じ試験を受けて合格しないといけないのです。留学生はいろんなことをはじめから勉強しなければならないのですが、英語で書いたものがとても少ないので、日本語のものを読んで勉強しないと行かなくて大変です。授業も、先生のされた研究や先生が日本語で書いた教科書をもとにしていて、ほかの本をみても書いてありません。

D たしかに留学生にはハンディキャップがあります。そのために最初の1年間チューターという制度があります。日本語の表現など教えていただくのですが、表面的で、実際にはあまり役に立っていないような気がします。もっと、授業でわからないところなどを教えてもらえるといいと思います。それから指導教官の先生もいらっしゃるのですが、忙しすぎて、2~3カ月に1回会ってち

報文集 価格表

		会 員	非会員
T-76-1	オペレーションズ・リサーチのためのデータとプログラムに関する研究	4000円	5000円
T-77-1	システムダイナミックス——方法論と適用例	2500円	3500円
R-79-1	「ORの実践とその有効活用」視察団報告書	1200円	1800円
R-82-1	「欧州におけるOR実施状況」視察団報告書	1200円	1800円
T-83-1	地理的情報処理に関する基本アルゴリズム	6000円	7500円

よって話をするぐらいで終わってしまいます。これは改めてほしいと思います。

C 私の場合は、学部の2年間チューターがいました。最初にどんなチューターを希望するかと聞かれたので、大学院生ではなくて同級生がいいと言いましたら、そのとおりにしてもらえました。毎日顔を合わせるので、何でも聞けて大変によかったです。結局彼が日本人の中で一番親しい友人になりました。友達の留学生で、大学院生にチューターになってもらった人もいますが、大学院生は忙しいので、特別のアレンジメントをしてから会って相談をするという形になり、あまり役に立たなかったという例もあります。

さきほどお話のありました博士号をとるまでの年数の長さの問題について話したいと思います。文科系の場合にはもっと深刻な問題です。5年間大学院で勉強しても、博士号をもらえる望みはきわめて少ないのです。日本国内では博士号がなくても、博士課程で勉強したというので一定の価値がありますが、よその国にいったら、博士号がなかったら、ただ5年間遊んでいたということになってしまいます。そういうわけで、すごく不安があります。

B イギリスの場合は3年でドクターをとれるし、それで論文がまともでない場合には1年～一年半ぐらい延長してとることができます。また、そこまでいかれなかった場合にも、MPという別の称号がもらえて、それもドクターということになっています。ところが日本では、日本語の勉強期間も入れると最低6年かかるわけですから、それ以上延長して留学することはきわめて困難です。もちろん、留学生の場合はレベルを下げてくださいなどというつもりは毛頭ありませんが、この問題を具体的に考えていただけるとありがたいと思います。

もうひとつ、博士号をとるためには論文をいくつか書かなければならないのです。実際的なORとしてみるとおもしろいテーマがいろいろあるのですが、そういうのは論文になりにくいので、結局論文を書きやすいテーマをとりあげるということになりがちです。一般にどちらのタイプの問題にとりくんだらよいか、という問題があります。他の留学生に聞いても同じ悩みをもっています。

横井 それは留学生だけでなく、日本人の場合にもある大事な問題です。しかし留学生の場合には、日本で勉強なさった後、お国に帰られて、日本とは違った環境のもとでお仕事をなさるわけですね。ですから、これだけのものをもって帰られれば十分に仕事ができるのでドク

トの称号を与えることができるというふうに、日本人の学生の場合とは違った基準で判定することを考えてもよいのではないかということですね。それは非常に大切なことですね。

B ええ、日本で勉強した留学生は、他の国で勉強した留学生よりもずっとよく仕事ができると思います。そのくらいきびしくやっています。それはとてもよいことです。

帰国後の仕事

横井 今の話に関連して、皆さんはお国に帰られたら、どんなお仕事をなさりたいと思っていらっしゃるんですか。

A 私は大学の先生にもどります。国に帰れば、ORを勉強した最初の人ということになると思いますから、責任をもって帰りたいと思います。日本で教えてもらったことを、たくさんの人に教えたいと思います。

B 私の場合も、もちろん、もとの大学にもどります。私の国では、ORという分野は新しく、教えているのは私の大学だけで、それも学部レベルだけです。ですから修士課程レベルでORを教えたいと思っています。国ではORの専門家が少なく、しかも彼らが給料のいい外国へいってしまうという頭脳流出の問題があります。私は国にもどって一生懸命やりたいと思います。私も学科で最初のORの専門家になると思います。

C 私は学界よりも実業界あるいは役所で仕事をやりたいと思っています。ですから、学校での勉強以外に、金融市場等の勉強も、夏休みの実習なども交えてやっています。

再び制度上の問題について

A 奨学金に関して問題があります。いまは1年ごとに更新するようになっています。毎年12月ごろに翌年度分を申請するのですが、結果がわかる3月ごろまで不安です。

たとえば博士課程なら最低3年かかるわけですから、3年間続けてもらえるようになっていると、落ちついて勉強できてよいと思います。3年間保証すると、安心して遊んでしまうと文部省は思っているのかもしれませんが。

司金 遊んでしまうというよりは、お役所の単年度予算という制度のためではないかという気がします。

D ビザの更新も面倒です。1年に1度、私立の場合は半年に1度やらなければならないのですが、東京に出て

きて1日がかりの仕事になります。アメリカあたりでは、大学でまとめてやってくれるそうですが、毎回きまった仕事ですから、日本でもそうしてくれるとありがたいと思います。

それから、さきほども話のありました留学生のレベルのことですが、日本の大学は留学生受け入れの基準ははっきりしていないような気がします。留学生に対しては甘くするというのではなくて、むしろアメリカなどのように統一的な試験をして、それに合格したものだけを受け入れるようにしたほうがよいと思います。そうしないと、日本にきたけれど学位がとれないで困るものが出たります。

それから、最初研究生でいて、大学院に入った場合には、研究生のときに授業に出てレポートも出したような科目については、単価を認めてもらえるようお願いするのですが、

B 私の知人に、タイにあるアジア工科大学の修士課程に留学した人がいるのですが、彼の場合は、ある問題について国に帰ってデータをとりたいたと言ったら、国に帰ってデータをとり、またもどってその問題を考えるチャンスがあるのです。ORを勉強している者にとっては、実際の問題を考えることが大切ですから、このようなチャンスは大変に重要だと思います。そうすれば、理論的な勉強ばかりしないで、自分の国にある実際の問題を研究することができて、将来国に帰っても実際に役に立つと思いますし、政府の偉い人とか一般の人にも自分がやったことをわかりやすく話すことができます。

横井 それは確かにとっても重要なことですね。それからさきほどヤオハンさんがおっしゃったことも大切ですね。つまり、日本についてよく調べてレポートを書く。それは、その人が日本の社会機構を理解したという証明になります。

それは、お国に帰られたとき、ひとつの財産になります。それを日本の大学が認めるということに意義がありますね。

日本の学位の価値

C それの延長線上の問題ですが、日本の大学で学んで学位をとったとしても、国によってはその価値を認められないという問題があります。私も留学生の団体は、それを認めてくれるように要求し続けていますが、留学生の力だけではなかなか実現しません。日本の大学や政府も、そういう要求を出してくれるとありがたいと思います。

B 私の考え方は少し違います。日本の政府が外国の政府に対して要求を出すという種類の問題ではなくて、留学生をよく教育して帰し、かれらが他の国へ留学して帰った者よりよく仕事ができるということを実証すれば、自然に認められるようになります。

C 問題は、はじめから実力を発揮する場が与えられないということです。日本で学位をとって帰っても、政府が認めませんから、大学や政府のポストにつけないのです。そういうところには、アメリカやイギリスで学位をとって帰ったものが就職してしまうのです。

B それは国によって違うかと思います。私の国でも、以前は、アメリカ・イギリスに留学した人ばかりが活躍していました。しかし最近では日本で勉強した人も少しずつ増えて、仕事をしています。これがもっと増えて活躍するようになれば、日本に留学したほうがいと一般に認められるようになると思います。米・英の大学で学位をとる場合には、いくつも論文を書かなくてもすむけれど、日本ではそうはいかないということも、私の大学では理解されるようになりました。私は6カ月ごとに progress report を書いていますし、今回発表した paper もその中で報告しましたから、日本の大学で勉強するのは大変にきびしいということも国で理解してくれていると思います。

A ただ、さきほども言ったように、統一基準がないので、ある人は比較的簡単にドクターをとって帰るという場合もあって、なかなか一般的には比べられないのではないのでしょうか。

C 実力を見せるのは留学生ですが、ただ時間にまかせれば解決するというものではないと思います。やはり要求すべきことは要求してゆくのほうがいいと思います。

横井 ひとつの解決策は、日本の大学と外国の大学がお互いに評価をすることだと思います。この部門は同じレベル、この部門はこちらが上というふうに、そういう評価が増えてゆけば、日本の大学の学位も認められるようになると思います。

たとえば、マレーシアの大学とイギリスの大学の間では、昔からそのような評価が行われてきたのではないのでしょうか。だからイギリスの学位が認められているのだと思います。

D 姉妹校を作るというのもひとつの方法ですね。

留学生の受け入れ枠

C もうひとつの問題は、留学生の受け入れ枠のことで、マレーシア政府は、日本に学べという政策を打ち出

して、留学を希望する者の数が大変に増えています。ところが受け入れ可能人数のほうはあまり増えないのです。国費留学生の場合は、たいてい政府間で解決されるからよいのですが、私費留学生の場合は特に問題です。国費留学生は、たまたま日本の奨学金に受かったから日本にきたということもありますが、私費留学の場合には、はじめから日本で勉強したいから自分で金を払って日本にきているわけですから、もう少し柔軟に受け入れてもらえるとうれしいと思います。

D 留学生の受け入れ枠のことで、希望者が増えたからとむやみに枠を増やさないほうがよいと思います。量よりも質が問題です。十分面倒をみられる範囲にしばっておくのがよいと思います。どこでも競争はきびしいのですから、本当に日本にきて勉強したいのだったら、国で一生懸命勉強してからきたらいいと思います。

横井 レベルを分けて受け入れたらどうでしょうか。皆さんのように本当にトップのレベルの勉強をしたい人の受け入れ枠はむやみに増やせません。しかし、たとえば学部レベルでプログラムの勉強だけをして国に帰りたいような人は、もっとたくさん受け入れられる可能性があると思います。だから、受け入れのきびしさもいろいろ設けて、たくさんの人を受け入れることは意義があると思います。

日本政府・OR学会に対する希望

B 私は国に帰って大学の先生を続けるつもりですが、日本人の先生にしばらくきてもらって、研究上の助言などをしていただける制度ができると大変によいと思います。そういうことを希望している大学はたくさんありますし、お願いしたい先生は日本にたくさんいらっしゃいます。日本の先生にとっても、アジア各国のかかえている問題にふれる機会があってよいと思います。いままでアメリカやイギリスはそういうことをやってくれました。

最近も私の大学にアメリカの大学の先生がきて3カ月ほど指導をしてくれ、その後も本などをプレゼントしてくれました。日本政府も、これからそのような援助をしてくれるといいと思います。

A いままで、日本の大学や政府に対する注文ばかり言ってきましたが、私たちは不平不満ばかり言っているなどと誤解をしないでください。日本の大学は大変によく、だからこそ勉強にきているのです。しかし、いいところをここで言ってもしかたがないので、ほんの少しの悪いところを言っているのです。それが改善されれば、

留学生の環境はもっとよくなると思うからです。

司会 そのことはよくわかっています。

では最後に、OR学会に対する要望がありましたら、どうぞ。

横井 率直に言いますと、日本OR学会は、いままでアジアの国々に対してあまり目を向けていませんでした。これではいけないということは、数年前からおおぜいの人気があっていました。今年ぐらいから、いろいろな国の人ももっとよく協力するために、regionalなfederationを作るとか、conferenceを開くとかいった活動をしたらどうかと思って、いま各国に提案しているところです。

そのためには、皆さんのような方々ともっと近づきになり、いろいろなコメントをいただきたいと思います。それが今日の座談会を企画した動機です。

B 日本OR学会のJournalが大学の図書館に定期的に入るようにしていただけるとありがたいです。それがないと、国に帰って研究を続けるのがむずかしいのです。それがあれば、他の先生方も、日本ではこんな研究をしているということがわかって、いいと思います。

司会 全部の大学に贈るというわけにはいかないと思いますから、どこの大学でORの研究をしているといった情報を教えてくださるといいですね。

横井 お国にお帰りになったら、OR学会を作られたらいかがでしょうか。私どももできるだけ援助をさせていただきます。お金がなくても、情報の援助ぐらいならできます。

B 国に帰ってから論文を書いて日本OR学会のJournalにのせてもらうとしたら、費用がかかりますか。

司会 タイプを自分でしてくださいれば無料です。

A 会員でなかったらかかるでしょう。1ページ5000円ぐらいだと思います。私の国だと、5000円といえば1カ月生活できるぐらいですから大変です。

司会 お国に帰られてからも会員でいることは大変ですか。

B 大変ですね。

司会 それでは、これで終わりにしましょう。長いあいだ本当にありがとうございました。

(文責：伏見。紙数の都合で、2人以上の発言の要旨を1カ所にまとめてあるところもあります。したがって、**A**、**B**、**C**、**D**は、必ずしも特定の個人を表わすものではないことをお断りします)